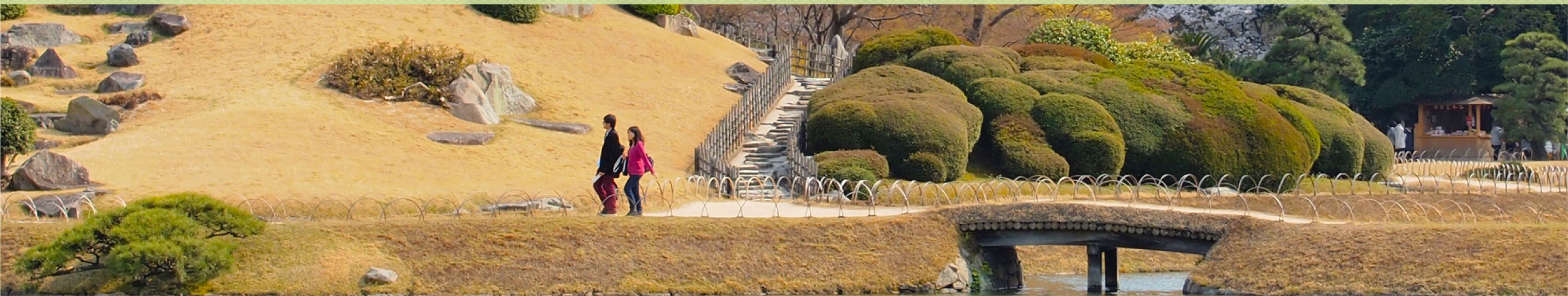
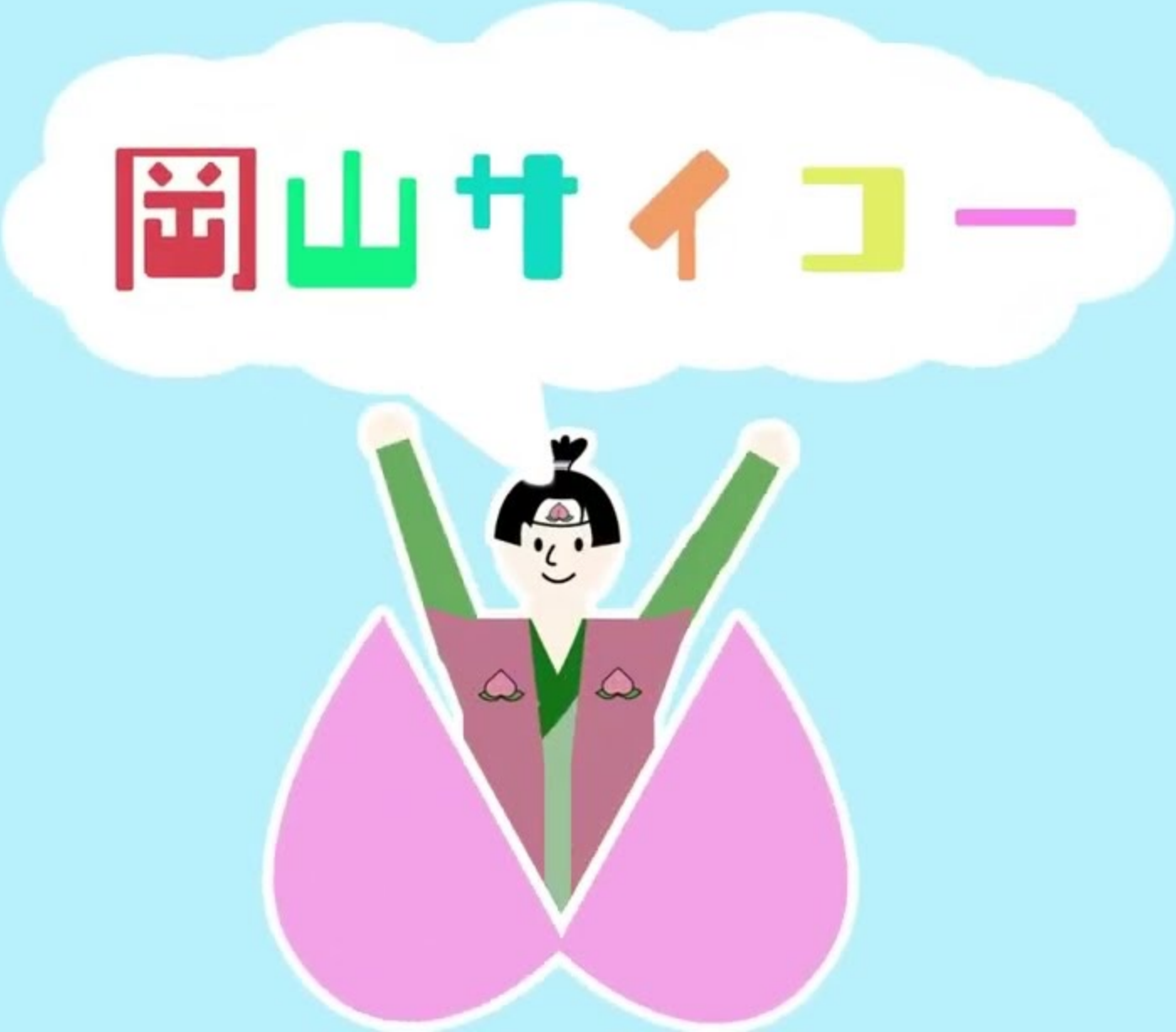
GovTech Challenge OKAYAMA

スタートアップと行政職員が協働する、新たな地域課題解決プロジェクト



https://youtu.be/eEn8LWmijd4



GovTech Challenge OKAYAMA

スタートアップと行政職員が協働する、新たな地域課題解決プロジェクト

ご参加ありがとうございます。
16時から開始しますので、
もうしばらくお待ち下さい。

GovTech Challenge OKAYAMA

スタートアップと行政職員が協働する、新たな地域課題解決プロジェクト

オンライン説明会

2022年7月13日(水)16時～17時15分

本日の流れ

コンテンツ	時間
GovTech Challenge OKAYAMA実施にあたって 岡山市長　大森雅夫よりご挨拶（動画）	16:00～16:01
GovTech Challenge OKAYAMAにかける想い（産業政策課）	16:00～16:04
GovTech Challenge OKAYAMAの事業概要	16:05～16:10
各課自己紹介（各課30秒 ）	16:10～16:15
ブレイクアウトルーム　各担当課より説明＆質疑応答	16:15～17:00
よくあるQ&Aの紹介、全体QA	17:00～17:10
クロージング	17:10～17:15

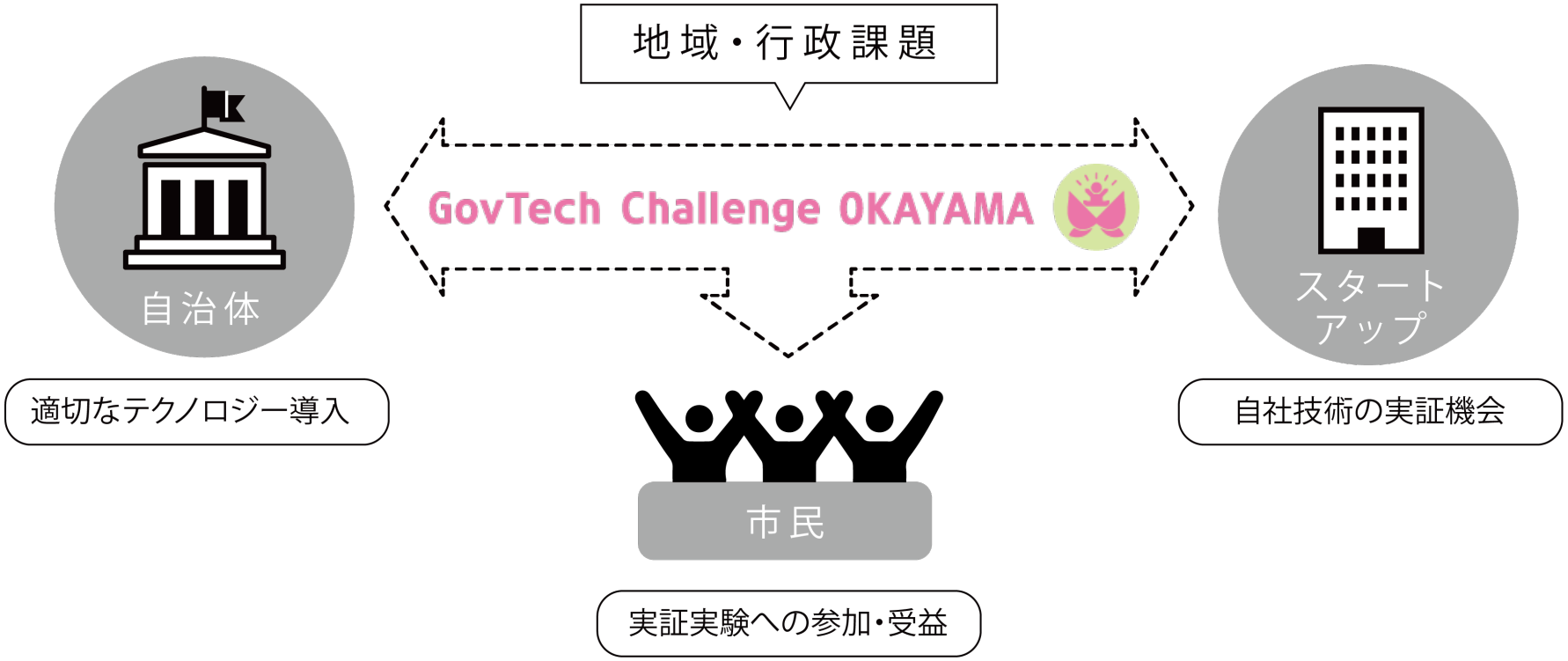
岡山市長 大森雅夫よりご挨拶

https://youtu.be/WLl4s0kuFoU

GovTech Challenge OKAYAMAにかける想い
産業政策課 二ノ宮課長代理

GovTech Challenge OKAYAMAとは？

市職員とスタートアップが協働して
行政課題や社会課題の解決に取り組むことで、
市の課題解決とスタートアップの成長を目指す取り組み

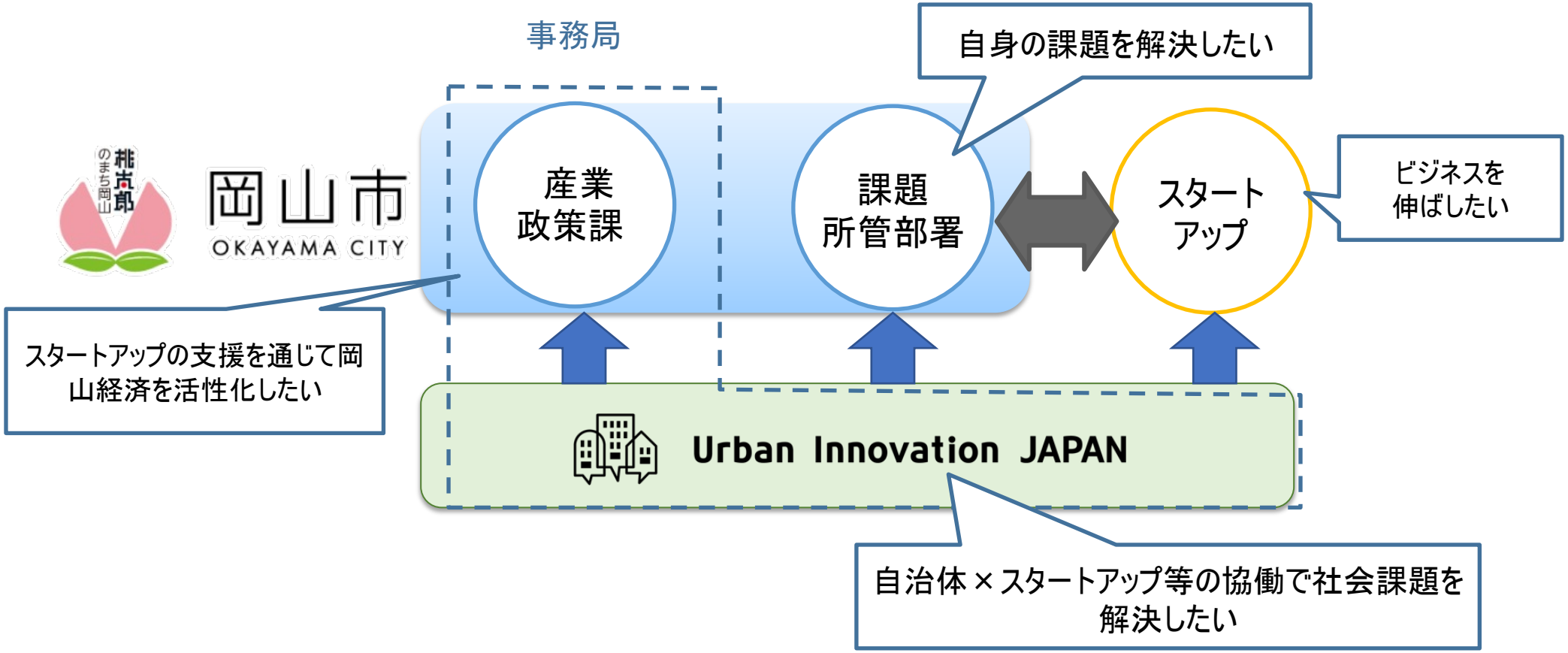


募集テーマ

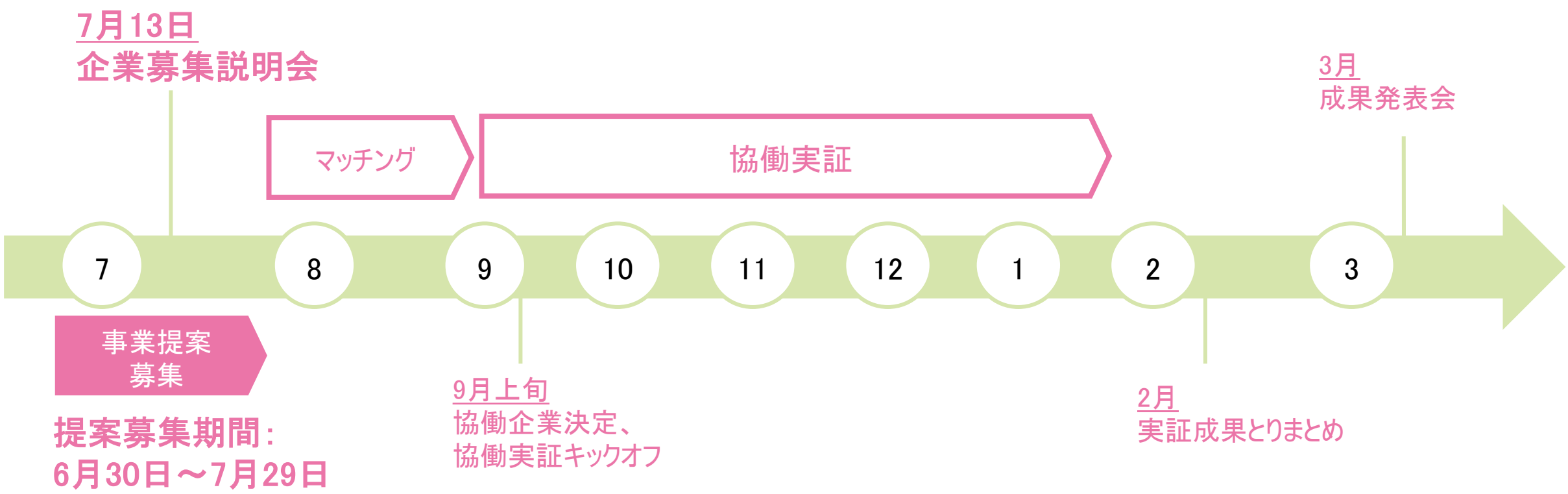
テーマ	担当部署
文化芸術と市民の距離を縮めたい！ ～多角的なアイデア募集中～	文化振興課
町内会DX！助成金申請の電子化で役員の負担軽減と 持続可能な地域づくりを目指す！	南区役所総務・ 地域振興課
早めの対策でいつまでも健康に！フレイル健康チェックを広げたい！	地域包括ケア推進課
海ごみはどこからやってくる！？ 上空からの画像の解析により河川流域をモニタリングしたい！	環境事業課
目指すはまちの活性化！ AIを使った通行量調査の有効性を検証したい！	産業振興・雇用推進課

プロジェクト実施体制

産業政策課とUrban Innovation Japanが、課題所管部署とスタートアップの協働を支援します。



全体スケジュール


7月13日
企業募集説明会
マッチング
協働実証
3月
成果発表会
7
8
9
10
11
12
1
2
3
事業提案
募集
提案募集期間：
6月30日～7月29日
9月上旬
協働企業決定、
協働実証キックオフ
2月
実証成果とりまとめ

企業等への期待・実施いただきたいこと

1 課題解決のアイデア・技術

企業等の技術やノウハウを基にした課題解決アイデアのご提案。

2 実証実験の企画・運営

担当課職員と協働で実証実験を進める。特に技術的なサポートを期待。
※事務局も企画・運営をサポート

3 成果報告サポート

実証実験成果のデータ集計や考察などの取りまとめをサポートいただく。

ご提案企業のメリット

PR効果

製品・サービスのテスト

本格導入・他自治体への展開

3つのサポート

実証補助 最大50万円/課題

実証フィールドの提供

行政職員とUIJ事務局の
プロジェクトサポート

応募方法

Urban Innovation JAPAN

UIJとは　実証事例　過去の課題　自治体の方はコチラ　お問合せ　企業の方はコチラ　申し込み

岡山市 (岡山県)

岡山市では、今年度から、スタートアップの成長支援とデジタル技術等を活用した社会・行政課題の解決を目的とした新たな事業として「GovTech Challenge OKAYAMA」をスタートしました。中四国の市町村としては、初めての取り組みであり、本事業を通じて、スタートアップの成長支援をさらに加速していきたいと考えており、最先端の技術や斬新なアイデアで課題解決のご提案をしていただけるスタートアップ企業を募集します。 岡山市を社会実証フィールドとして、一緒に課題解決にチャレンジしてみませんか。みなさまのご参加をお待ちしています。

募集中

山口県 07.19 まで

小牧市 07.22 まで

愛知県 07.25 まで

岡山市 07.29 まで

神戸市 07.31 まで

岡山市募集課題一覧

締切　2022年 07月29日（金）

選考プロセス

6月30日～7月29日	8月上旬	8月中旬～8月下旬	9月上旬
WEBから応募	書類審査	オンライン事務局面談	担当部署による面談
	事務局にて採点	各社30分～1時間程度	担当部署と企業とで1時間程度 可能な限りデモを確認

お問い合わせ

詳しい募集要項はホームページをご覧ください。

文化芸術と市民の距離を縮めたい！～多角的なアイデア募集中～

文化振興課

文化スポーツ

残り17日

町内会DX！助成金申請の電子化で役員の負担軽減と持続可能な地域づくりを目指す！

南区役所総務・地域振興課

まちづくり　# 窓口

残り17日

早めの対策でいつまでも健康に！フレイル健康チェックを広げたい！

地域包括ケア推進課

保険・福祉・介護　# 健康・医療

残り17日

海ごみはどこからやってくる！？上空からの画像の解析により河川流域をモニタリングしたい！

環境事業課資源循環推進室

環境

残り17日

目指すはまちの活性化！AIを使った通行量調査の有効性を検証したい！

産業振興・雇用推進課

まちづくり　# 交通　# 産業振興

残り17日

ご質問は以下の事務局メールアドレスまでご連絡ください。※担当課への直接のお問合せはご遠慮ください。

連 絡 先

GovTech Challenge OKAYAMA事務局/ Urban Innovation JAPAN事務局

urban_innovation_japan@communitylink.jp

こんな企業のご応募お待ちしております！

- ✓ 本気で社会をよくしたいと思っている
- ✓ 地域・行政関係で新しいビジネスを作ろうとしている
- ✓ リスクをとって事業拡大を目指している

文化芸術と市民の距離を縮めたい！～多角的なアイデア募集中～
（文化振興課）

文化芸術と市民の距離を縮めたい！
～多角的なアイデア募集中～

岡山市　文化振興課

1.実現したい未来

【現状】

本市では、「おかやま国際音楽祭」や「岡山市芸術祭」など、文化芸術事業を実施しているが、文化芸術活動を行っていないと答えた人は8割以上で、暮らしと文化芸術の距離が遠い。

【こうなって欲しい！】

アーティストやクリエーターとして発展できる機会を作るなどの仕掛けにより、多くの市民に文化芸術を身近に感じてもらいたい！

【こんなこと考えてます…】

①関心が薄い層にももっと知ってもらう工夫はないか（市民認知度を向上）

②もっと市民に参加してもらえるような仕掛けは作れないか（市民参加を促進）

③地域のアーティストやクリエーターの活躍に繋がるようなアイデアがないか

（アーティスト等の活躍の場を創出）

2.解決したい課題と提案例（その１）

◇市民の認知度向上のため

→認知度を関心が薄い層にもイベント情報を発信できるツールづくり

事業例）

・「誰でも情報が手に入る！こんなイベントあったんだ」
　SNSを高度に活用したイベント発信事業

・「次のイベントも見に行こう！ 目指せコンプリート」
　アンケート機能と連動したスタンプラリーアプリの活用事業

2.解決したい課題と提案例（その2）

◇市民の参加（鑑賞や発表）を促進するため
→市民が参加したくなる仕掛けづくり

事業例）

・「あなたの地域から発信を！文化芸術イベント開催を強力サポート」
地域が主体の文化芸術イベントの企画運営する際に、サポート会社とのマッチングシステム活用事業

・「発表の場が夢の舞台に！ライブ演奏の後は疑似ライブ」
市民の発表の機会である生演奏を録画・編集し、ヴァーチャル空間（国立競技場など）でのライブ風アーカイブ配信事業

2.解決したい課題と提案例（その3）

◇市内のアーティストやクリエーターの活躍の場を創出するため
→若手アーティストを巻き込めるオンラインでのイベント企画

事業例）

・「今すぐこのアーティストを応援したい！ライブ中でもデジタル投げ銭」
公演出演者や作品展示者に対して、「いいね！」と思えば**デジタル投げ銭**ができるアプリの活用事業

・「岡山の今を集結！きらりと光る次世代を発掘」
若手アーティスト作品を展示するためのICTを活用した**デジタル美術展**開催事業

・「A（アーティスト）×S（サポーター）！共に羽ばたくチームでイベントを作る」
市内の**アーティスト・クリエーター**と応援する人たち（**スポンサーやイベント発注者**）を結び付け、活躍の場に繋げる**マッチング**システム活用事業

GovTech Challenge 倉敷AYA場

3.今回やりたいこと

・情報発信、仕掛け、イベントなどの施策を市民向けに一定期間実施し、アンケートや参加者数などの指標をもって、その有効性を検証。

・今回は幅広な提案募集のため、成果についても同時にご提案いただきたい。
（実証実験で評価する定量的、定性的指標についても提案の中で触れるようにお願いします。）

町内会DX！助成金申請の電子化で役員の負担軽減と持続可能な地域づくりを目指す！（南区役所総務・地域振興課）

町内会DX！助成金申請の電子化で役員の負担軽減と持続可能な地域づくりを目指す！（南区役所総務・地域振興課）

町内会DX！助成金申請の電子化で役員の負担軽減と持続可能な地域づくりを目指す！

岡山市・南区役所総務・地域振興課

1.実現したい未来

- 当課では、地域活動を担う町内会に対して、地域活性化のための相談・助言のほか、防犯灯設置、町内のイベント実施への補助金支給など、様々な支援を行っています。
- 町内会の実態は、住民・役員の高齢化が進み、面倒な事務も多い役員のなり手が不足。
- 行政に提出する書類は、申請や届出、報告など、すべて紙ベースのため、より手間と時間がかかる。

◆デジタル化が進み、今まで書類作成に時間を取られ、これまでできなかった活動に取り組む時間ができたり、負担が少ないならば地域の活動に取り組んでみてもよいかも、という方が少しでも増えて欲しい！
◆ご高齢の方に煩雑な書類作成や、遠路来庁いただくといった負担も少しでも軽減したい！

高齢者でも、仕事を持ちながらでも、**誰でも、いつでも、簡単に**、**各種の申請手続きができる**ことで、町内会の負担が減り、
多様な世代が地域活動に携わる、活力ある地域を目指したい！！

2.解決したい課題

・定年延長や定年後も働き続ける方の増加に伴い、町内会長の年齢は高齢化し、半数以上が70歳以上

▶ 町内会運営の負担軽減、担い手の確保を進めたい！

・町内会が支援を受けるには、補助金申請書の提出が必要。しかし補助金の種類が多く、補助金ごとに添付資料が異なるため、種類の多さと、手続きの煩雑さで、補助金申請をためらう事例もある。

▶ このままでは、地域活動の衰退に繋がる恐れ！

・申請は紙ベース。わざわざ申請書を持参（郵送）する必要があり、行政側もそのデータを手入力するなど、町内会役員だけでなく行政側の業務負荷も大きい。

▶ 申請手続きの電子化で、町内会と行政のお互いの負担を軽減したい！

3.今回やりたいこと

●町内会活動における申請手続きの電子化で、行政と町内会の負担軽減につながるかの検証を行いたい。

●所定様式に沿った申請電子化や、必要情報を申請者が入力すると自動的に様式に沿った形でデータが生成され、行政側と共有されるようにしたい。

●町内会からの補助金申請や、異動届など、異なる種類の手続きについて、高齢者や、スマートフォンの操作に慣れていない人でも、簡単で使いやすい申請用のアプリやＷｅｂサービスにより実現したい。

今回は一部町内会において、開発した申請サービスの実証実験を実施する。

利用検証の具体的な流れ

①対象とする申請について、Ｗｅｂサービスやアプリを用いた新たな手続きの流れを開発。

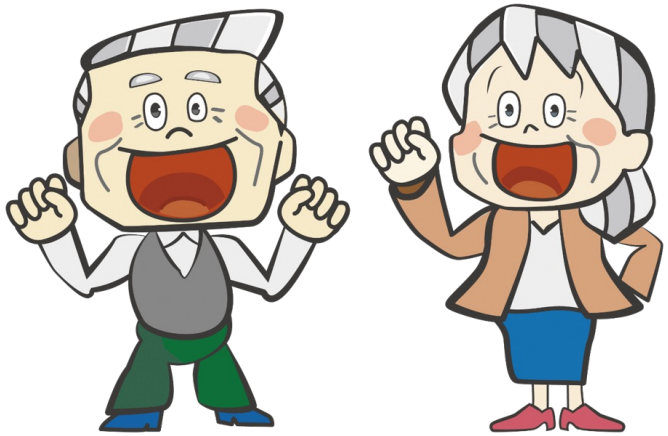
②一部の町内会などでユーザビリティを検証。（10件程度の実証実験は可能）

③実際の防犯灯補助申請手続きで利用してもらい、利便性、業務効率への寄与度を検証したい。

活発で、持続的な地域活動が行われる社会を目指したいと考えています。一緒にチャレンジいただける皆さまからの応募をお待ちしています！

早めの対策でいつまでも健康に！フレイル健康チェックを広げたい！
（地域包括ケア推進課）

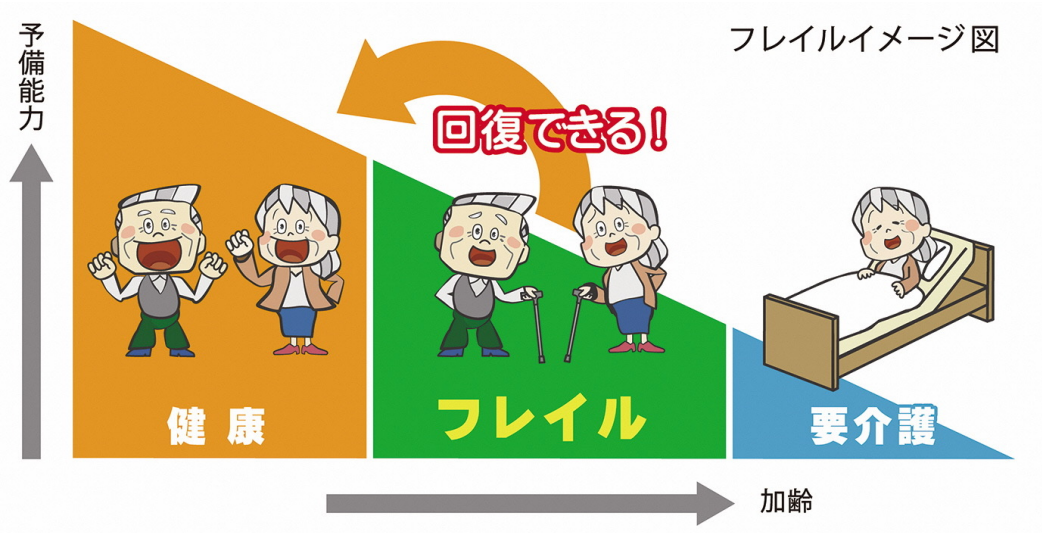
早めの対策でいつまでも健康に！
フレイル健康チェックを広げたい！



岡山市・地域包括ケア推進課

1.実現したい未来

高齢者がフレイル健康チェックを受け、できるだけ早い段階から介護予防の取組に繋げることで、要介護状態に陥るリスクを減らし、健康寿命の延伸につなげたい。



〇今回の実証実験で実現したいこと

　→薬局や地域の集まりで行っているフレイル健康チェックを受ける人を増やしたい！

2.解決したい課題

・岡山市民の平均寿命と健康寿命の差が大きい。

・フレイル健康チェックを行っているものの、市内の高齢者約14万人（要介護状態の高齢者を除く）のうち、昨年度は3,400人程度しかチェックを受けておらず、個別指導の利用も伸び悩んでいる。

①フレイル健康チェックを受ける動機づけが弱い

「受けてみたい！」と思うような魅力的なものにできていない。

②フレイル健康チェック実施機関の負担が大きい

薬局等からシートを市まで郵送いただいたうえで、紙に記載されている内容をデータ化しており、手間と負担が大きい。

また、チェック後のアドバイスは専門職の知識や経験に頼っている部分も多く、アドバイスや指導が難しいという声が現場で聞かれる。

③フレイル健康チェックのアドバイスとその後の健康管理の継続

チェックを受けた高齢者のその後の健康管理を行う方法がない。

岡山市フレイルチェックシート　（本人控え）

この結果は、岡山市及びフレイルチェック実施機関において適切に保管します。
岡山市の事業や統計・調査研究などに活用しますので、同意される方はご記入ください。

記入日	年　月　日	性別	男　・　女
ふりがな 氏　名		電話番号	
住　所 〒	岡山市		
生年月日	大正・昭和　年　月　日（　歳）		

以下の太枠の中をご記入ください。（「はい」か「いいえ」どちらかに○をつけてください。）

日常生活活動チェック　（　）点

①	バスや電車で１人で外出していますか	0．はい	1．いいえ
②	日用品の買い物をしていますか	0．はい	1．いいえ
③	預貯金の出し入れをしていますか	0．はい	1．いいえ
④	友人の家を訪ねていますか	0．はい	1．いいえ
⑤	家族や友人の相談にのっていますか	0．はい	1．いいえ

運動機能チェック　※3点以上で運動に該当　（　）点

⑥	階段を手すりや壁をたわらずに昇っていますか	0．はい	1．いいえ
⑦	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0．はい	1．いいえ
⑧	15分位続けて歩いていますか	0．はい	1．いいえ
⑨	この1年間に転んだことがありますか	1．はい	0．いいえ
⑩	転倒に対する不安は大きいですか	1．はい	0．いいえ

栄養チェック　※2点以上で栄養に該当　（　）点

⑪	6ヶ月間で2～３kg以上の体重減少がありましたか	1．はい	0．いいえ
⑫	体重　kg　身長　cm　（BMI ＝　）	1．はい	0．いいえ

※（基準値）BMI＝体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)が 18.5未満の場合は、「1．はい」を選択。

口の機能チェック　※2点以上で口腔に該当　（　）点

⑬	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1．はい	0．いいえ
⑭	お茶や汁物等でむせることがありますか	1．はい	0．いいえ
⑮	口の渇きが気になりますか	1．はい	0．いいえ

閉じこもりチェック　※⑯の回答が「いいえ」で閉じこもりに該当　（　）点

⑯	週に1回以上は外出していますか	0．はい	1．いいえ
⑰	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1．はい	0．いいえ

物忘れチェック　※1点以上で物忘れに該当　（　）点

⑱	周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	1．はい	0．いいえ
⑲	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0．はい	1．いいえ
⑳	今日が何月何日かわからない時がありますか	1．はい	0．いいえ

こころの健康チェック　※2点以上でこころに該当　（　）点

㉑	(ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	1．はい	0．いいえ
㉒	(ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1．はい	0．いいえ
㉓	(ここ2週間)以前は楽にできていたことが今はおっくうに感じられる	1．はい	0．いいえ
㉔	(ここ2週間)自分で役に立つ人間だと思えない	1．はい	0．いいえ
㉕	(ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	1．はい	0．いいえ

↓実施機関記入欄　結果・判定　総合点数　点

0～3点	特に問題はありません。1年に1回はフレイルチェックを受けましょう。
4～7点	フレイルにならないよう、生活習慣を見直しましょう。
8点以上	要介護状態にならないよう、介護予防に取り組んでください。 個々の状態に応じた、専門職の指導を受けることをお勧めします。

介護保険サービスの利用	有 ・ 無	個別指導の希望	有 ・ 無

計測

握力測定	右手(　.　)kg　左手(　.　)kg	基準値を満たす ・ 基準値に満たない	

※(基準値) 男性28kg以上、女性18kg以上は、「基準値を満たす」を選択。

指導内容

1）第1の矢（栄養）
2）第2の矢（体力）
3）第3の矢（社会参加）
4）別紙歯科（口腔）
5）いずれにも該当要素なし
6）その他

実施機関名	チェック実施者名

図：フレイルチェックシート

3.今回やりたいこと

想定される解決策	**フレイル健康チェックをどこでも簡単にでき、薬局の負担も軽減できる仕組みの構築** フレイル健康チェックアプリ ・チェックをアプリ上で行い、結果に応じてその場で適切なアドバイスを行うことができる ・介護予防センターでの個別指導が必要な場合は、その場で予約もできる ・結果データは、自動的に市のデータベースに集約される仕組みとしたい ・次回のチェック時期のお知らせ等ができる形ができると嬉しい ※将来的に、健康管理機能（日々の介護予防の取組み・健康状態の記録等）も付加していきたい
実証実験内容	**薬局や体操などの通いの場での実証を1～2ヶ月の間実施して、データ収集を行う** 〇薬局で実施するパターン →アプリ等を活用することで、実際にチェックを受ける高齢者が増えるか、実施機関の負担が減るか を検証する。（例：薬剤師にアンケートを実施、実際に作業の時間が減るか計測） 〇通いの場で実施するパターン →実際に高齢者にアプリを使ってもらって、スムーズに回答できるかといったユーザビリティのテス トや今後も継続したいかなどについて直接フィードバックをもらう。 （例：利用シーンの観察、インタビューによる聞き取り）

海ごみはどこからやってくる！？上空からの画像の解析により河川流域をモニタリングしたい！（環境事業課）

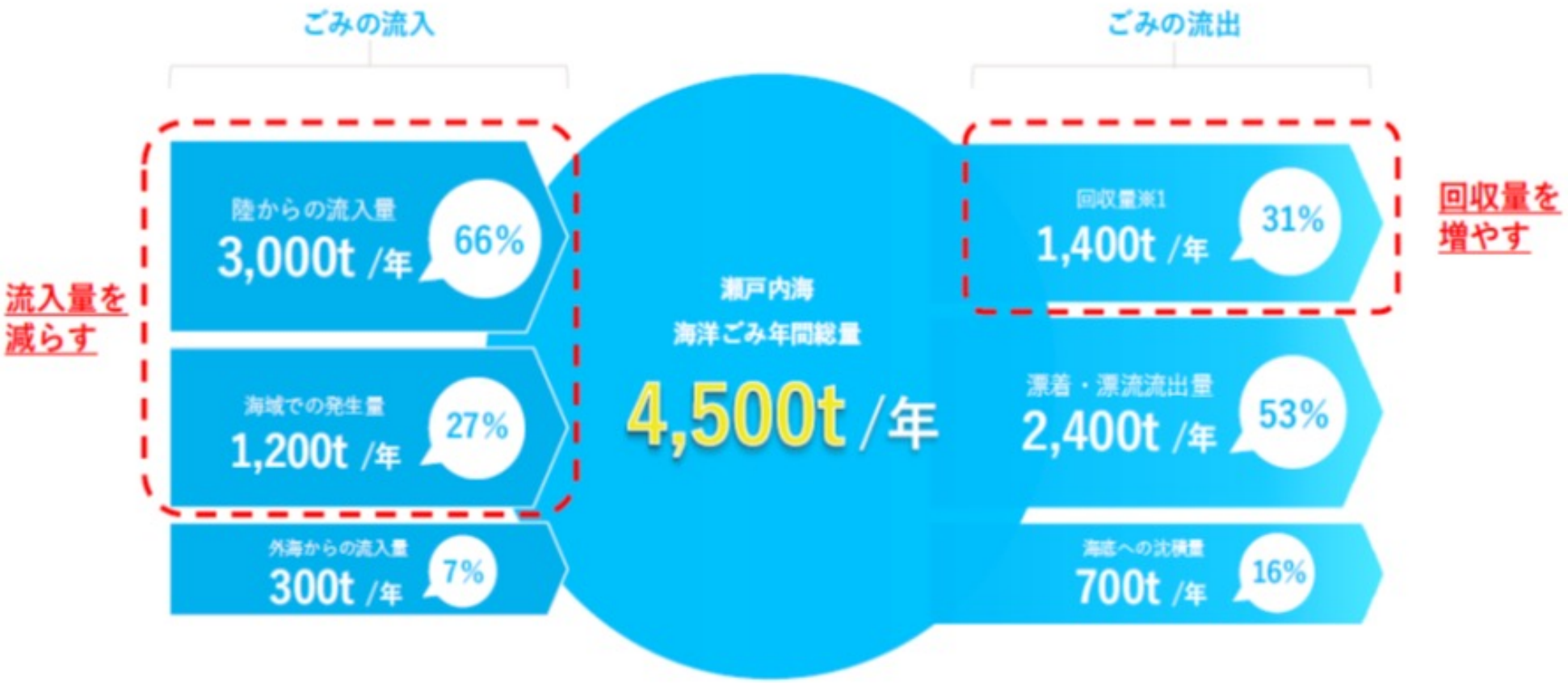
海ごみはどこからやってくる！？

上空からの画像解析により河川流域をモニタリングしたい！

岡山市・環境事業課

1.実現したい未来

- 瀬戸内海に陸から流入するプラスチックごみをゼロにし、瀬戸内の海洋を保全する。
- そのために、海ごみを発生させない仕組みを社会に構築したい。



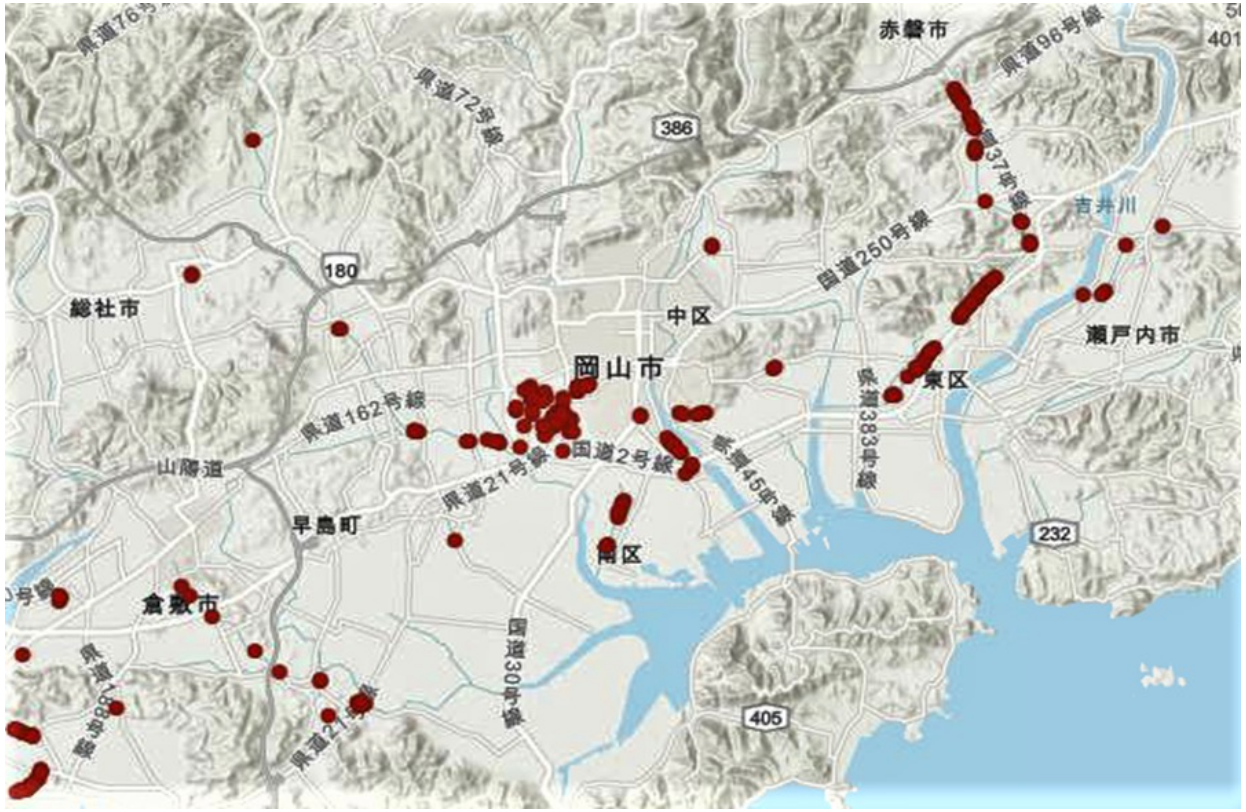
瀬戸内海における海洋ごみ収支（引用：瀬戸内オーシャンズX推進委員会）

2.解決したい課題

海洋ごみの多くは、陸で発生したごみが水路や河川を介し、海に流入している。

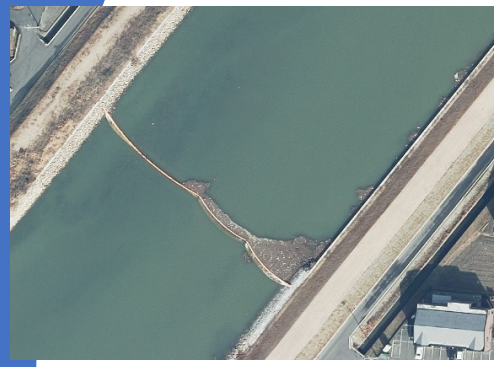
・市内全域のホットスポットを継続的にモニタリングできるようにしたい。

※ホットスポット：　際立って散乱ごみが集中している箇所



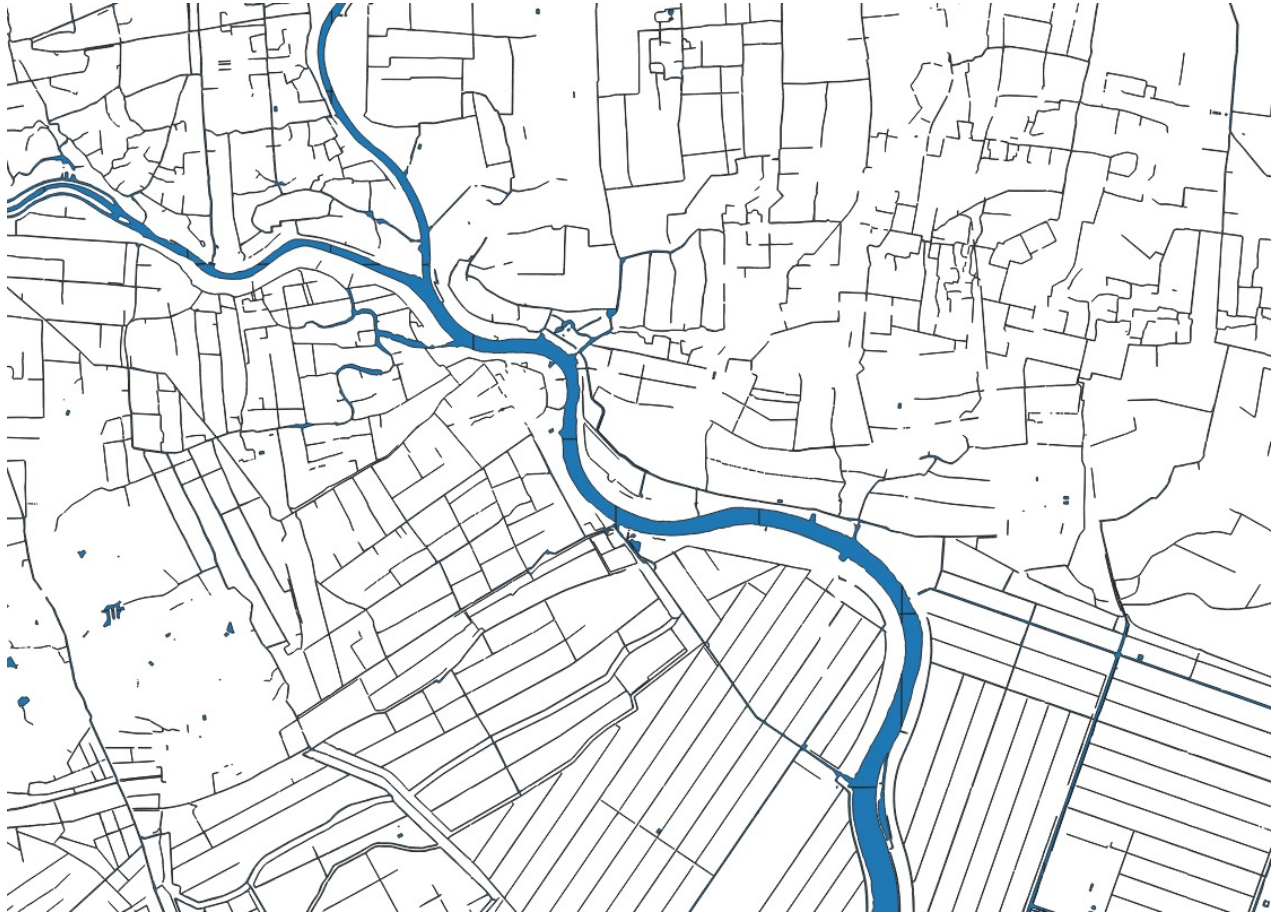
ホットスポット（引用：瀬戸内オーシャンズX推進協議会）https://setouchi-oceansx.jp/

ここで
回収したい



3.今回やりたいこと

- 航空写真や衛星写真を画像解析し、河川や海岸のホットスポットを定量的に観測する。
- 時点の違う画像を分析することで、経年変化を見える化する。



道路のように見えますが、
すべて用水路。

総延長4,000kmの用水路
からホットスポットを見
つけたい。

目指すはまちの活性化！AIを使った通行量調査の有効性を検証したい！
（産業振興・雇用推進課）

目指すはまちの活性化！
AIを使った通行量調査の有効性を検証したい！

岡山市
産業振興・雇用推進課

1.実現したい未来

【現在】
　従来の歩行者通行量調査は道路交通網の整備や大型店の出店、消費者ニーズの多様化等によって年々変化する中心市街地における歩行者通行量を把握・分析することで、商店街等の商業集積エリアにおける顧客吸引力を測定し、商店街や中心市街地の活性化を図るための基礎資料とすることを目的としていた。
　しかし、データは休日・平日の2日間と比較対象が少なく活用しにくいこと、また、コロナ禍の中でまちなかの人の流れは大きく変化してきており、従来の方法では人の流れをリアルタイムに把握することができないでいる。

歩行者通行量データをリアルタイムで誰もが活用できる仕組みを構築し、商業の活性化につなげたい。

2.解決したい課題・今回やりたいこと

●現在実施している通行量調査は平日・休日の計２日間のみのカウントであり、岡山市のまちなか活性化に向けて、時間や日数に縛られない方法で通行量調査を行った際のデータ活用についてニーズの可能性を検証したい。

●岡山市内の商店街にＡＩカメラを設置し、リアルタイムで歩行者数や年齢・性別等の属性の集計データを公開し、有効性とニーズを検証する

従来

●手法：調査員を配置し、数取器による計測
●調査日：休日・平日の計２日（隔年）
●調査時間：午前９時～午後６時（計９時間）
●調査地点：約５９地点
●調査データ：歩行者数

課題
調査日は平日・休日の計2日間のみと少なく、調査時の天候やイベント等の有無に結果が左右される。

今回

●手法：ＡＩカメラによる自動化
●調査日：２～３ヵ月間程度※応相談
●調査時間：２４時間
●調査地点：市内商店街の３ヵ所程度
●調査データ：歩行者数、属性（性別・年齢等）

検証
リアルタイムで歩行者数や年齢・性別などの属性の集計を行い、ＡＩカメラの有効性とデータの活用性についてニーズの可能性を検証する。

将来

歩行者通行量データをリアルタイムで誰もが活用できる仕組みを構築し、商業の活性化につなげたい。

3.実証実験想定

●岡山市中心部の商店街でAIカメラを設置しての実証実験

・カメラはアーケード等への取り付けを想定していますが、通路に置くだけのカメラでも可（人は付いている必要あり）

・大きな工事を行っての取り付けでなく、電源がある箇所での実験を想定

・商店街組合等との調整や説明は市のほうで可能

【ニーズ検証】

・実証データを商店街関係者に提供し、ニーズヒアリング

・長期的なデータが見られることでテナント出店の検討材料などに活用できるか

・リアルタイムのデータを見られることやイベントに絡めた人流の変化を測ることで、個別の店舗もしくは商店街　単位での施策に活かすことができるか

期間中最大のイベントは、11月3日～5日に開催される「備前おかやまええじゃないか大誓文払い2022」となる予定で、このイベントでの計測も行いたい。

プログラム終了後 ➡

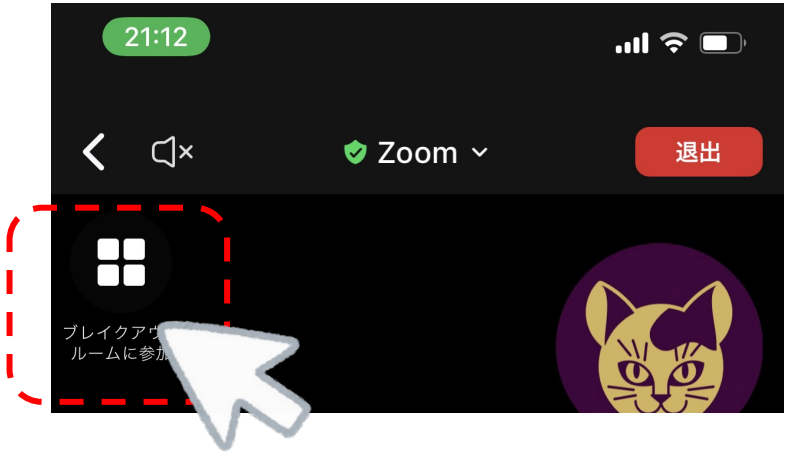
本格導入：可

予算化：費用対効果を踏まえ、実現可能なら予算化を検討

課題QA ブレイクアウトルーム（40分+α）

■入室方法
画面下部のブレイクアウトルームボタンを押し、部屋を選択して、入室してください。

スマホの方は、画面左上のボタンから入室してください。



課題QA ブレイクアウトルーム

【お願い】

- 課題ヒアリングの場なので、分からないことは何でも聞いてください。
- ただし、何が正解か、担当課の中でも決まり切っていない可能性もあります。
- 競合する企業同士かもしれませんが、カメラをオンにしていただけると会話しやすくなります。
- 課題解決に向けた前向きな議論を一緒にしましょう。
- ご提案の熱い想いは応募フォームへ！
- GovTech Challenge OKAYAMAの事業に関する質問（契約や支援金について）は
  のちほど全体のQAとして、お答えします。

よくある質問

Q. 実証支援金を超える費用がかかった場合は請求できますか？

A. 今年度の実証にかかる費用でお支払いできるのは、課題1件あたり50万円（税込み）上限となっています。超過する部分については、ご負担をお願いします。

Q. 提案前にもう一度担当部署と話したいのですが。

A.提案前に個別に担当部署と面談することはできません。今日の時間内にぜひご確認ください。
審査の中で担当課と面談の機会がございますので、その際に詳細なすり合わせが可能ですので、まずはご提案いただけますと幸いです。また、最終審査前に提案書の更新も可能です。

皆さまのご応募をお待ちしております！